カフェテリア連続セミナー
「食の再生が地域をつなぐ」

このたび誕生したカフェテリア「結（ゆい） 紀伊國屋」には、単なる飲食のための場を越えて、環境や食のあり方を見直す場、学内と地域を結ぶ交流の場として機能してほしいとの願いがこめられている。芸術文化交流センターは芸術と暮らしの融合を図る新たな文化の創造に向けた試みとして、「くらしをデザイン・地域をアート」をキャッチフレーズにしたカフェテリア連続セミナーを企画した。

第1回はインド、スペイン、ドイツなど世界各地で活発な制作活動を続ける現代美術家の岡本光博氏。その豊富なアーティスト・イン・レジデンス（芸術家滞在制度）の体験を〈食〉の視点から講演されたが、中でも氏が持参した、飢餓状態にあるアフリカの幼児をかたどった添加物入り食紅を塗った卓上用ソルトセラー（塩入れ）の樹脂の作品は、飽食王国ニッポンの姿を浮き彫りにし、風刺するものとして印象的だ。

第2回は大津市仰木の里山に古くから伝わり、今なお一般家庭で普通に食されている「納豆餅」をみんなでつくって試食した。屋外での餅つきに始まり、つきたての棚田米の餅を稲藁でカットする。消費一辺倒の食文化に慣れた参加者にはもちろん初めての経験。失われた食の原風景、スローフードの原点を垣間見た思いだ。塚本志づ江氏、堀井弘子氏をはじめとする5人の仰木住民の方々による行き届いた指導とレクチャーに、自ら作った納豆餅のおいしさに、会場は最後まで盛り上がった。里山とニュータウンをつなぐきっかけになったことを素直に喜びたい。

会場：カフェテリア「結（ゆい） 紀伊國屋」
主催：芸術文化交流センター

第1回「アーティスト・イン・レジデンスの食事情」
会期：2004年10月26日
講師：岡本光博
進行：今井祝雄

第2回「みんなでつくろう仰木のスローフード～地域に息づく伝統的食文化～」
会期：2004年11月13日
講師：塚本志づ江，西村しほ子，堀井長一，堀井弘子，市田豊
進行：島先京一

第3回「食と命～食文化のゆくえ～」
会期：2004年12月４日
講師：山崎洋子，岩田康子
進行：大岩剛一

第3回は、NPO法人「田舎のヒロインわくわくネットワーク」代表の山崎洋子氏と「(有) Blueberry Fields 紀伊國屋」代表の岩田康子氏の対談だ。ダイオキシン、BSEや鳥インフルエンザ、食品の偽装表示など、食をめぐるさまざまな問題が私たちの命を脅かしている。大量生産が生み出す食品、背景の見えない食材。本当の豊かさとは何かを問い続ける二人の対談は、参加者の胸にダイレクトに響いたはずだ。

3回の連続セミナーを通して予想を上回る参加者にめぐまれた。中でも仰木の里ニュータウンの住民が圧倒的に多い。人と人、人と地域、生産地と消費地を結びつける本学の役割の大きさを痛感した。地域の建材・地域の食材を両輪に始動を開始したカフェテリアの、〈食と住のコラボレーション〉にふさわしい企画だったと言えよう。

10周年記念事業

カフェテリア完成

カフェテリア建設運営委員会座長　大岩剛一（デザイン科教授）

カフェテリアの完成

2004年10月1日、カフェテリア「結（ゆい） 紀伊國屋」がオープンした。思えば、この企画が初めて会議の席に上がったのが2002年春のこと。さまざまな紆余曲折を経た後、比叡山麓で無農薬のブルーベリーを栽培しながら持続的な農ある暮らしの運動を展開している「(有) Blueberry Fields 紀伊國屋」が経営者に決まり、カフェテリア建設運営委員会の活動がようやくスタートラインについた。開店の9ヶ月前、2004年1月のことである。建築・インテリア・企画運営の三つの部会に、クラス、学年を越えて集まった学生たちのめざましい活躍が始まったのはこの時からだ。

4月末の着工に向けた調査・研究・企画の検討が各部会ごとに教員を交えて進められ、数え切れないほどのミーティングが持たれた。5月末にようやくこぎつけた上棟式に頬がゆるんだのもつかの間、建設工事のやま場となった8月、9月は、学生たちにとって記録的な猛暑と度重なる台風に見舞われながらの突貫工事というきわめて過酷な夏になった。炎天下のうだるような屋根の上で黙々と金属板を張る者、床に這いつくばって釘を打ち続ける者、経営者との慣れない打ち合わせに奔走する者。しかし彼らの顔は常に生き生きと輝き、粘り強い指導をしてくれた地域の職人さんたちとの間に、仲間との間に、ゆるぎない信頼感が培われていた。

開店に先立つ「響心祭」の初日、「カフェテリア・オープン記念パーティー」が学長の挨拶で始まった。真新しいフロアーで教育後援会会長をはじめとする父兄、地域の職人さん、運営委員会の学生たち、教職員を含む130名もの列席者が、紀伊國屋の料理に舌鼓を打ちながら学生たちの健闘を讃え、完成を祝いあった。その前日にはギャラリー・アートサイトで「カフェテリア～セルフビルドの記録展」が始まっている。建設記録写真（写真クラス）、テーブル・椅子の模型と試作品（住環境デザインクラス）、ロゴ（グラフィックデザインクラス）、エプロン（ファッションデザインクラス）、紀伊國屋の紹介パネル（芸術計画クラス）、建設過程の記録映像ビデオ（映像クラス）など、学生たちの努力を内外に伝える作品が多数展示され、9日間で約900名の入場者を数えた。

この間、学生たちが得たものの重さははかりしれない。始動を始めたカフェテリアは彼らひとりひとりの中に生き続けながら、成安造形大学との末永く実り多い歩みをともに始めようとしている。

上棟式
会期：2004年5月26日
会場：カフェテリア「結（ゆい） 紀伊國屋」
主催：カフェテリア建設運営委員会

カフェテリア～セルフビルドの記録展
会期：2004年9月24日～10月2日
会場：ギャラリー・アートサイト
主催：カフェテリア建設運営委員会

カフェテリア・オープン記念パーティー
会期：2004年9月25日
会場：カフェテリア「結（ゆい） 紀伊國屋」
主催：成安造形大学

カフェテリア「結（ゆい） 紀伊國屋」オープン
開店：2004年10月1日

大津市古都指定記念公演「声明」

開催日：2004年11月28日
会場：大津市民会館大ホール（大津市）
主催：大津市
協力：成安造形大学
演者：天台宗総本山比叡山延暦寺、天台寺門宗総本山園城寺、
　　天台眞盛宗総本山西教寺
講演：木村至宏

大津市は2003年10月に、全国で10番目の古都指定を受けた。それを受けて成安造形大学は風格あるまちづくりに協力するため、2004年3月大津市と大学の関係を深める協定を結んだ。この声明の企画は、大津市が古都指定を受けたことを記念する文化プログラムで、大津市民会館大ホールで公演された。同会館の運営副委員長を務める辻が、運営委員会で大津市への大学の広報協力を提案し、印刷物のデザインおよびその制作を行うこととなった。具体的にはグラッフィックデザインクラス教授の田積司朗先生に協力をお願いした。制作物は、この公演のポスター、チラシ、当日配布用のパンフレットである。公演は11月28日に行われ、声明の前に成安造形大学、木村至宏学長の「古都指定と大津」と題する講演があり、大津・滋賀の文化財と歴史について語られた。続いて声明の公演があり、天台宗総本山比叡山延暦寺にはじまり天台寺門宗総本山園城寺（三井寺）、天台眞盛宗総本山西教寺とそれぞれ約50分の演目が披露された。声明は日本音楽の源流ともいわれ、近年日本国内だけではなく海外でも注目を浴びる日本の伝統芸能である。しかし今回のように三つの宗派が集まり公演が行われるのは初めてであり、大津市でしかできない企画である。あらためてその歴史の深さを知る企画となった。公演には、大津・滋賀だけでなく他府県からの入場者も多く、約1000人が参加した。この企画は大学と大津市との協定を具体的な形にした良い事例となった。

辻喜代治（造形美術科教授）

天台声明初の三山競演

大津市の「古都」指定記念し三寺の僧70人出演

延暦・園城 西教各寺 秘曲含め21曲披露

打楽器を伴う秘曲「三十二相」を唱える西教寺の僧侶ら

泣き節 怒り節 千人の聴衆を魅了

『中外日報』2004年12月4日

天台宗3山が声明

大津で初の合同公演

宗派ごとに特色　厳かな響きが聴衆魅了

『朝日新聞』2004年11月29日

「声明」ポスター（制作：田積司朗）

棚田Visions ――2004年の研究活動報告――

永江弘之 NAGAE Hiroyuki
デザイン科 専任講師（イラストレーション）

琵琶湖の豊かな水系に育まれた里山の自然、その美しい四季のうつろいと、空の広さ、さまざまな雲の表情や光の妙に、とても懐かしい気持ちを覚え、日々新鮮な発見の連続です。とりわけ棚田には強く惹かれます。大地の形を活かして作られた曲線、三次元に広がる造形美、人の手によって保たれてきた自然や生き物との共存空間。2002年4月に本学主催で催されたアート・ワークショップ「里山 小宇宙を旅しよう」で、仰木の棚田と初めて出会って以来、制作活動の場として、制作テーマとして、私を魅了してやみません。まだ知らないことが多く、表面的な関わりですが、棚田や里山のこと、そこを生産現場・生活空間とされている仰木の方々のことをきちんと知りたい、考えたいと思っています。

図1

幻視風景を描く 永江弘之絵画展

1月22日（木）～28日（水） 池袋東武百貨店美術画廊

幻視風景画と写生画をあわせて約30点を出品。

棚田Visions　永江弘之展

9月7日（火）～12日（日） 京都・ギャラリーマロニエ

棚田をキーワードにして制作した幻視風景画と写生画を両翼に配し、正面中央に仰木の棚田の四季を撮影した写真をプロジェクターで投影した。仰木の現場で制作した写生作品。棚田のイメージから制作した幻視風景画。そして写真。その総体が見る人の眼にどう映るのか。今後も展開させていきたい。

淡海の夢2004　企画

企画・監修。本学が立地する仰木の棚田・里山をフィールドとして、地元に根付いた取り組みとして、続けている。2004年は、春・夏・秋の「棚田写生会」と、高畑勲氏（アニメーション監督、スタジオジブリ）を講師にお招きした講演会「里山が語りかけるもの」と、公募風景展を開催した。

※詳細はワークショップ（32～33ページ）をご参照ください。

棚田・里山、湖辺の郷 ◇淡海の夢2004◇風景展

11月2日（火）～16日（火） 成安造形大学ギャラリーアートサイト

写生画、幻視風景画、各1点。写真6点を賛助出品。